

タンポポおじさんのタンポポの秘密 第7話 花は夜開く？

「赤く咲くのはけしの花 白く咲くのは百合の花 どう咲きゃいいのかこの私 夢は夜ひらく」(圭子の夢は夜ひらく 作詞：石坂まさを)という歌があります。ネオンの街の夜に咲く花もタンポポおじさんとしては魅かれますが、野に咲く花のほうがもっと魅かれます。

野に咲く花で、夜に咲く花といえば月下美人(ゲッカビジン)があります。メキシコ原産の花で、その名のとおり、月の明かりに照らされて可憐な白い花を咲かせます。では、なぜこの花は夜に花を咲かせるのでしょうか。植物が花を咲かせる目的は子孫を残すための受粉です。月下美人はなんとコウモリに花粉を運んでもらうコウモリ媒花なのです。というわけでコウモリが飛び回る夜に月下美人は花を咲かせるのです。



月下美人(ゲッカビジン)



大待宵草(オオマツヨイグサ)

「富士には月見草がよく似合ふ」と太宰治が小説「富嶽百景」の中で言っています。ツキミソウは夜咲く白い花です。太宰治はこの小説の中で「ちらとひとめ見た黄金色の月見草の花ひとつ、花弁もあざやかに消えず残った」とも書いているので、小説の中の月見草は、実はツキミソウではなく、黄色い大形の花弁をつける大待宵草(オオマツヨイグサ)であったと言われています。このオオマツヨイグサ、北米原産の外来種でこの花もまた夜に花を咲かせます。花粉は誰に運んでもらうかという夜に活動する昆虫、スズメガなどの蛾の仲間に運んでもらいます。ですから宵を待って夜に黄色い花を咲かせるオオマツヨイグサは虫媒花です。

黄色い花の虫媒花といえば、そう、タンポポもその一つです。こちらは夜には花を咲かせず、太陽の昇っている日中に花を咲かせます。それでは、タンポポの日中の開花の状況を見てみましょう。家の近くのタンポポの一日の開花の状態の変化を調べてみました。

朝7時から観察を始めたニホンタンポポは、意外と朝寝坊で10時過ぎから花が開きはじめ、12時には満開となり、14時頃から閉じ始め、16時過ぎにはすっかり花を閉じてしまいました。

ニホンタンポポの一日の開花状態変化

2011年3月5日 小田原



7 時



8 時



9 時



10 時



11 時



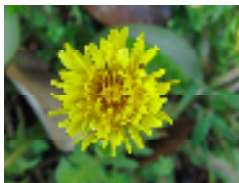
12 時



13 時



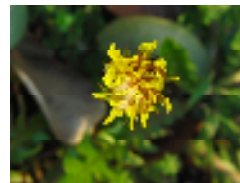
14 時



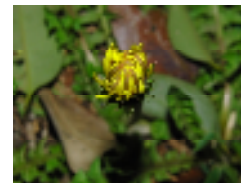
15 時



16 時



17 時



18 時

では、セイヨウタンポポではどうだろうと、ニホンタンポポとセイヨウタンポポの花を閉じる時間を別の日の別の場所で観察してみました。ニホンタンポポは 16 時 30 分には花を閉じてしまいましたが、セイヨウタンポポはそれより遅く 17 時過ぎまで咲いていました。

開花状況 ニホンタンポポ VS セイヨウタンポポ

2011年3月26日 16:30 小田原



ニホンタンポポ



セイヨウタンポポ

また別の日の夕方、散歩の途中で見つけたニホンタンポポとセイヨウタンポポも、ニホンタンポポの花は既に閉じていましたが、その近くのセイヨウタンポポの花はまだ開いていました。

では、なぜ在来種であるニホンタンポポと外来種であるセイヨウタンポポの開花の時間には差があるのでしょうか。受粉が必要なニホンタンポポは、昆虫が活発に飛び回る日中に限定して効率よく開花するのに対して、受粉を必要としない単為生殖であるセイヨウタンポポは、昆虫の飛び回る時間には関係なく、太陽の出ている時間に影響を受けているのかもしれない。

この件についてタンポポ研究者である愛知教育大学の渡邊幹男教授に伺ってみたところ、「日本のセイヨウタンポポの 90%以上はニホンタンポポとの雑種であり、開花時間の違いは実際に遺伝子判定をしないと難しいのでは」とのことでした。後日、別の場所でニホンタンポポとセイヨウタンポポの開花時間を観察してみましたが、この時はセイヨウタンポポの方が早く花を閉じていました。このセイヨウタンポポは、ニホンタンポポの遺伝子を取り込んだ雑種のタンポポであったかもしれません。

黄色い小さな花をつけるタンポポは「どう咲きゃいいのかこの私」ではなく、効率よく子孫を残すために花の咲く時間を必死にコントロールしているのです。

以上